

平成 30 年 7 月 14 日(土)～16 日(月)

参加者：岡本(L)、右田(記)

7 月 13 日(金)21 時前大阪を出発。

7 月 14 日(土)北陸道から関越道を通り枝折峠に 3 時 30 分頃に到着。すでにかんりの車が駐車している。車中で仮眠し、7 時 15 分頃出発。曇っていて景色は楽しめないが、暑くないのでよしとする。すぐに滝雲のビューポイントがある。登り一辺倒かと思いきや結構アップダウンがあり、トレーニング不足で段々と辛くなる。それとスタート直後からアブに付きまといわれてペースが乱れる。適当に休憩を挟みながら、マイペースで登って行くとやがて岩場となり、登り切ると駒の小屋に到着 11 時 15 分頃。小屋の前には冷たい水が流れており、早速のどの渴きを癒す。そして持参したビールを冷やし、睡眠不足で頑張った自分の体に乾杯。その後岡本さんは夜通しの運転疲れのため、小屋で昼寝。私は、駒ヶ岳の頂上に登り、花や景色を楽しむ。夕方、小屋の前で皆と一緒に夕食を取りながら歓談する。



越後駒ヶ岳登山道



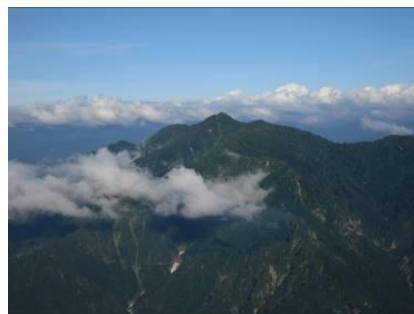
駒の小屋直下



駒の小屋と越後駒ヶ岳



越後駒ヶ岳頂上



荒沢岳



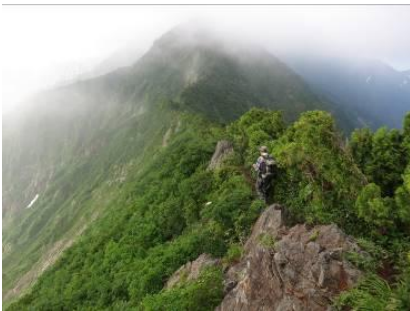
小屋の朝

7 月 15 日(日)3 時過ぎに起床。4 時 15 分頃出発。

越後駒ヶ岳への分岐を左へ取り、中ノ岳方面へ向かう。ニッコウキスゲの咲く尾根を楽しみながら下って行く。草刈り前で下草が夜露で濡れ、ズボンがビショビショになり、たまたら雨具のズボンを履く。それに外傾した登山道の幅が狭く、下草で足場が見えにくいので非常に歩きづらく神経をすり減らす。いくつかの小ピークを越して、檜廊下と呼ばれる顕著なピークに到着すると草刈り作業中の方々と遭遇。労いの言葉を掛け通り過ぎるが、刈り取った草で非常に滑り安くこれはこれで歩きにくい。檜廊下を過ぎると、本格的な中ノ岳への登りとなる。この頃から日差しが強くなり暑くなるが、花畑に癒されながら、気持ちよく登れる。ほどなく中ノ岳の避難小屋に到着。荷物を置き、頂上へ向かう。8 時 30 分頃到着。頂上からは、荒沢岳、尾瀬の燧岳・至仏岳、八海山などが望める。避難小屋の前の木陰で昼食を取り、駒ヶ岳へ戻る。帰りも同様にアップダウンがあり、コースタイムはさほど変わらない。しかし、ずっと日差しが強く、熱中症が心配されるほど暑い。たまたら、風通しのよい木陰で体を冷やしなが

離を稼ぐ。駒の小屋が

見えてからも一気に行けないので、小休止。やっと駒ヶ岳の分岐に到着し、岡本さんは駒ヶ岳頂上へ。私は前日に登っているので先に小屋へ降りてビールを冷やす。13時15分頃到着。10時間のコースタイムを炎天下歩くのは予想以上に厳しく、小屋に着いてホットすると同時に冷たい水をがぶ飲みした。後半はかなりゆっくりペースだと思ったが、結局9時間程度で歩いていた。この日は疲れでお酒もあまり進まず、早々にぐっすり。



中ノ岳への縦走路



檜廊下・越後駒ヶ岳



中ノ岳



八海山



ハクサンコザクラ



ニッコウキスゲ

7月16日(月)今日も朝から晴れて暑くなるのが予想されたので、3時30分に起床し、4時15分に小屋を出発する。基本、下りなので気は楽だが、後半は結構登りがあり、汗をかかされる。到着7時50分。3時間半程度で駐車場に戻る。小屋番おすすめの温泉が10時オープンなので、それまではとても待てないということで、早々に帰阪する。連休で渋滞が予測されたが、出発が早かったので、巻き込まれず15時30分に帰宅することができた。

岡本さんには、片道7時間×2の長丁場を運転していただき、お疲れ様でした。関東以北の山は、これまでほとんど登れていないのと、登山意欲の湧く魅力的な山が多いのでこれからも積極的にいきたいと思いました。今後ともよろしくお願いします。